

「核兵器のない世界」に向けた国際賢人会議サイドイベント
国光外務副大臣
締めくり挨拶(和文)

スラウビネン大使、
秋山先生、
パネリストの皆様

非常に洞察に富む議論を、誠にありがとうございました。

私たちは、核廃絶への道筋を切り拓いていく上で、核兵器が廃絶された世界における安全保障の在り方や、既に知られてしまった核兵器製造のノウハウがもたらす拡散リスクにどのように対処するかなど、実に多くの課題に取り組む必要があります。

しかし、国際社会は「核兵器のない世界」という目標や核兵器の持つリスクについての認識を共有してきましたが、今日に至るまでこうした議論についての収斂は見られていません。

日本が対話を重視し、「ステップ・バイ・ステップ」、あるいは、現実的かつ実践的なアプローチを重視するのは、こうした課題に核兵器国と非核兵器国が共に取り組まなければ、「核兵器のない世界」における安全保障外交の基盤となる信頼も信用も築けないと考えるからです。

有識者の皆様にも、引き続きこの難題に取り組んでいただきたいと考えております。このサイドイベントにおける皆様の議論及び国際賢人会議による提言が、NPT運用検討会議における議論を活性化させ、「核兵器のない世界」に向けた次の十年の道筋を切り開いていく第一歩につながることを祈っております。

本日はありがとうございました。